

F 身体の状況

1. 栄養欠陥による身体症候

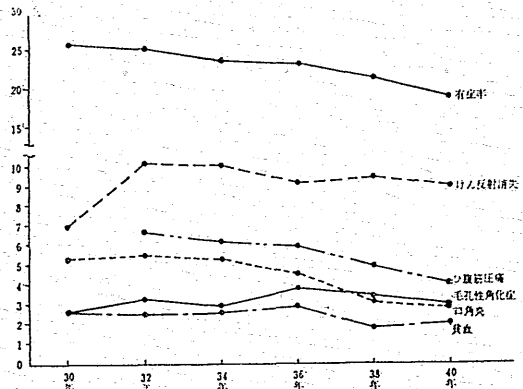
昭和40年度における国民の栄養欠陥に関係があると考えられる身体症候の発現率（有症者の割合）は18.7%である。

各症候別に発現状況を見ると、最も高率に発現しているのはビタミン B₁ 欠乏時の症候と関係があるとみられるけん反射消失とひ腹筋圧痛であり、それぞれ8.9%、4.1%となっている。次いで発現率の高いのは毛孔性角化症2.9%、口角炎2.8%となっている。

年次推移をみると第24図のとおり、各症候とも発現率は低下する傾向がみられる。

なお、性別に発現状況を比べてみると、従前同様に女子の発現率が男子を上回り、男子の15.4%に対して女子は21.5%となっている。

第24図 身体症候発現率の推移（各年次5月）



第21表 性別身体症候発現率の年次推移（5月成績）

症候別	年次		30 年		32 年		34 年		36 年		38 年		40 年	
	性別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
有 症 率			23.0	28.0	21.9	27.7	20.8	26.0	18.9	27.1	17.0	24.6	15.4	21.5
貧 血			2.0	3.2	1.9	3.0	1.7	3.3	1.9	3.7	1.0	2.4	1.1	2.8
毛 孔 性 角 化 症			2.3	3.7	2.5	4.0	2.0	3.6	2.5	4.9	2.2	4.3	2.1	3.7
口 角 炎			6.1	4.7	6.0	5.0	5.7	5.0	4.7	4.3	3.2	3.1	2.9	2.7
け ん 反 射 消 失			6.0	7.7	8.9	11.9	9.4	10.7	8.0	10.2	8.5	10.1	8.0	9.7
ひ 腹 筋 圧 痛			—	—	6.4	7.0	5.6	6.7	5.1	6.6	4.2	5.5	3.5	4.6

—業態別—

次に農家・非農家別に身体症候の発現状況をみると、農家世帯の有症率は21.1%で非農家世帯の17.6%を上回る発現を示している。

症候別にみると農家・非農家ともにけん反射消失が最も高く農家世帯、9.5%、非農家世帯8.6%となっている。

第22表 身体症候発現率（農家・非農家別）

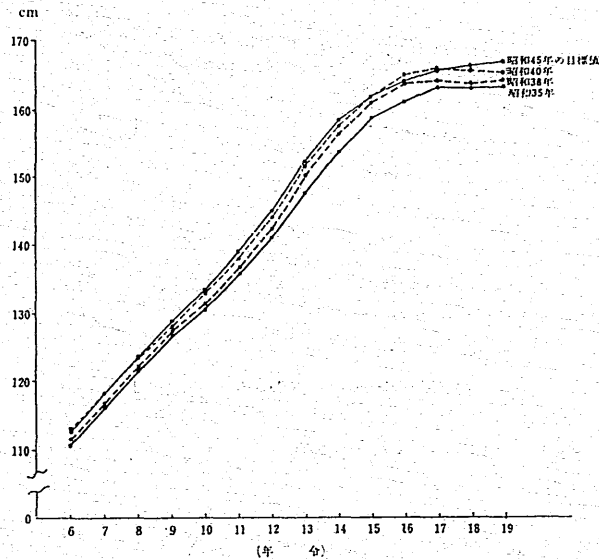
	農 家 世 帯	非 農 家 世 帯
有 症 率	21.1	17.6
貧 血	2.2	1.9
口 角 炎	4.1	2.1
毛 孔 性 角 化 症	3.4	2.7
け ん 反 射 消 失	9.5	8.6
ひ 腹 筋 圧 痛	4.9	3.7
浮 腫	2.3	2.4

2. 体 位

昭和40年度における青少年の体位は、前年に引き続き順調な伸びを示している。

男子の身長について年次推移をみると昭和35年、38年、40年と顕著な増加がみとめられ、昭和40年の身長曲線は昭和45年の推計値に著しく接近している。

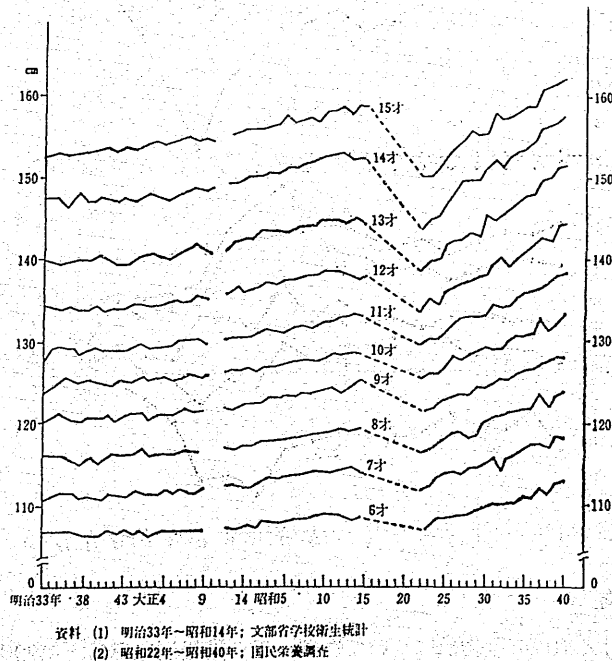
第25図 男子身長の昭和45年の推計値との比較



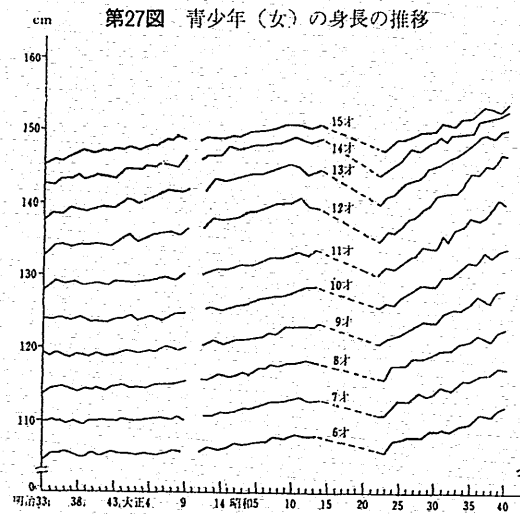
—青少年の身長の推移—

6～15才男女の身長について戦前からの推移をみると第26図、第27図のとおりで、全年令層とも順調な伸びを示している。

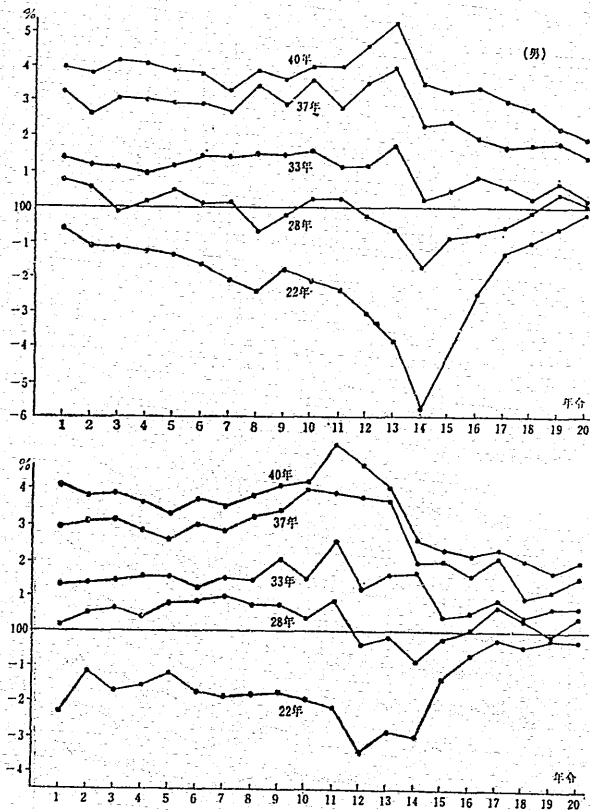
第26図 青少年（男）の身長の推移



また、戦前の標準体位を100とした場合の戦後における青少年の発育比率についてみると第28図のとおりである。



第28図 身長の戦前・戦後の発育比率（戦前の標準体重=100）

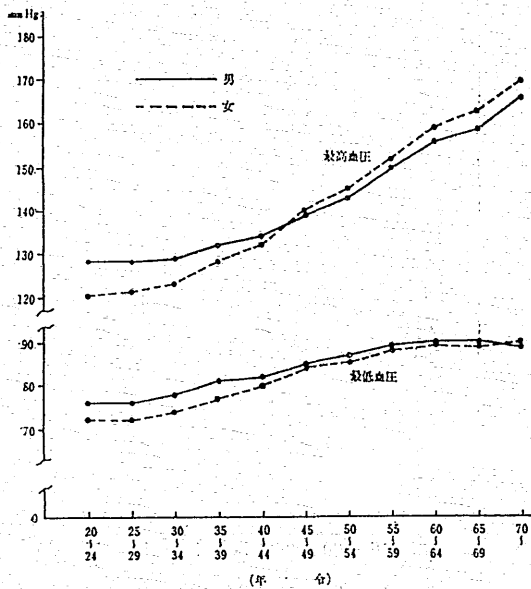


3. 血 圧（全国平均）

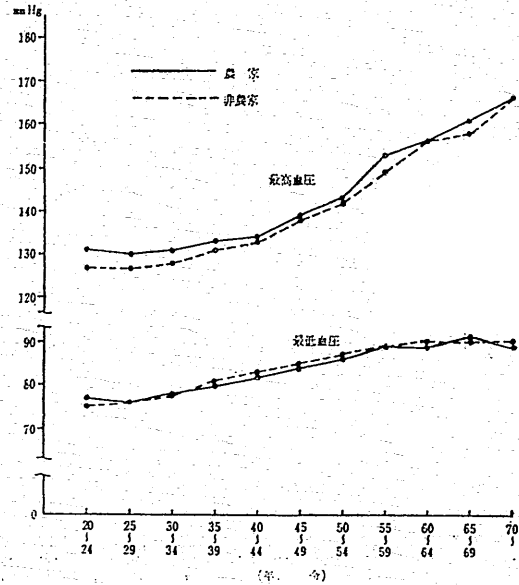
昭和40年度調査における血圧の平均値について性別、年令階級別にみると第29図のとおりである。例年のとおり最高血圧については、40～49才を境にして若年層では男子に高く、高年層では女子に高い一般的傾向を示している。

血 圧（業態別）

第29図 性、年齢階級別血圧平均値比較（全国平均）



第30図 世帯業態別血圧平均値の比較（男子）



次に農家、非農家別に血圧の平均値を比較すると第30図のとおりで、農家、非農家の両業態間に特に大きな差異は認められないが、従前からの一般的傾向として本年も最高血圧については、農家世帯が非農家世帯に比べて僅かながら高い数値を示している。

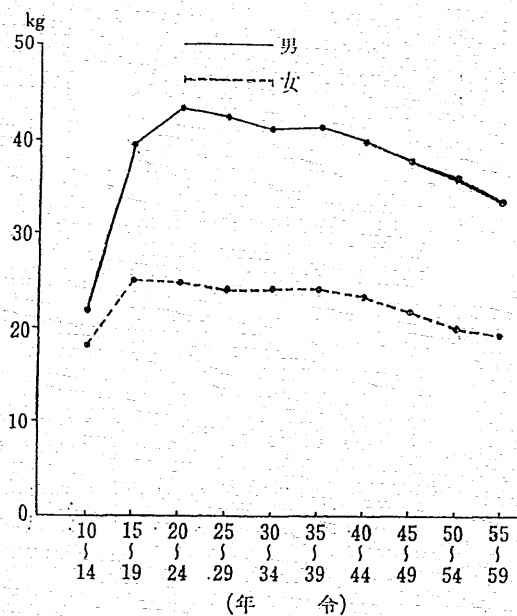
4. 握 力（全国平均）

昭和40年度調査による全国平均の年齢階級別握力の平均値は第31図のとおりで、男子の場合10～14才は21.9 kgであり、15～19才になると39.9 kgと急激に高くなり、20～24才で43.5 kgと最高値を示すが、その後は年齢の高くなるに従って緩慢ながら低下する傾向を示す。

次に女子にあっては、10～14才は男子に比べて余り差はないが、15～19才になっても、男子のように大きな上昇はみられず、以後も大差なく経過し、40才以降になって、ゆるやかに低下する傾向を示している。

次に農家、非農家別・性別に握力の平均値を比較してみると第32図のとおり、男女ともに農家世帯が非農家世帯を若干上回る数値を示している。

第31圖 性・年令階級別握力比較(全國平均)



第32圖 世帯業態別性別握力比較(年令階級別)

